

1 研究の優れている点

- 課題性がある
 - ・ 次期学習指導要領で示されるであろう内容の研究である。
- 実用性がある
 - ・ 「姿勢・運動の発達段階」に基づいて指導内容を検討した。
 - ・ ビデオによる授業分析の視点を示した。

2 研究との関連事項（1）

自立活動の改善・充実の方向性

- 発達段階を踏まえた自立活動の内容の改善・充実
- 実態把握, 指導目標の設定, 項目の選定, 具体的な指導内容の設定までのプロセスをつなぐポイントを分かりやすく記述
- 自立活動における多様な評価方法を分かりやすく記述

参考：中央教育審議会（平成28年）：『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ 補足資料』p.198

2 研究との関連事項（2）

学習上等の困難に関する姿勢と運動の例

| | |
|---|--|
| 学習関係の困難 姿勢保持と上肢操作 見つめること 発声・発語 | コミュニケーションの困難 発声, 見つめること ジェスチャア |
| 環境の把握の困難 見つめること 音源へ向くこと 確かめること | 健康の保持の困難 摂食のための運動 嚥下のための運動 呼吸のための運動 |

参考：木松憲幸（2011）：『脳性まひ児の発達支援－調和的発達を目指して－』北大路書房 pp.12-15

2 研究との関連事項（3）

肢体不自由（運動障害）のある生徒等のためのアセスメント

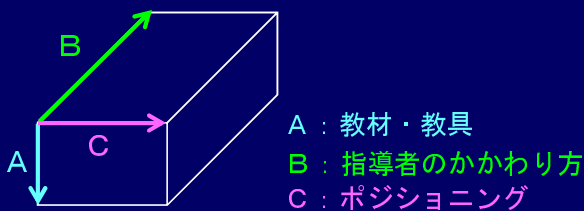
姿勢

健康状態, 運動, 認知・コミュニケーションとは相互に深い関わりがある

参考：広島県教育委員会特別支援教育課（平成28年）：『肢体不自由（運動障害）のある生徒等のためのアセスメント』

2 研究との関連事項（4）

指導によるポジショニングの位置付けと効果的な学習の3条件



参考：川間健之介・西川公司（2014）：『改訂版 肢体不自由の教育』放送大学教育振興会 p.124

3 今後に期待すること

困難さの状態の把握

| | |
|---|--|
| これまでの示し方 障害別の配慮の例 弱視 難聴や言語障害 肢体不自由 ADHD・LD | 改善の例 困難さごとに示す 見えにくい 聞こえにくい 体験が不足 表情や動作が困難 |
|---|--|

参考：中央教育審議会（平成28年）：『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ 別紙6』p.31